

講演会のご案内

家族会のぞみ

と き：2019年6月11日(火) 13:30～15:30

ところ：ハーモニーとよおか3階地域交流室1・2

1 演 題 「家族の関わり方について」



2 講 師 鈴木高男 氏

[講師紹介]

- ・摂食障害者家族の会 ポコ・ア・ポコ 代表
- ・千葉県摂食障害協議会委員

- ・2012年に第16回糸賀一雄記念賞を受賞
- ・主な著書：摂食障害からの回復をささえる家族のちから (コンボ)
家族ができる摂食障害の回復支援 (星和書店)
- ・家族会及び相談会を主宰
国府台病院、千葉市、名古屋市、水戸市、札幌市、柏市、相模原市、
横浜市 (3ヶ所) 等で家族会及び相談会を毎月1回開催中。

3 講演の経緯と内容

東海林正医師 (石川町クリニック 医院長) によると、統合失調症治療において、非再発率は薬物療法のみで33%に過ぎないが、家族が介入すると73%まで上昇するとの研究結果があるとのこと。このような驚くべき事実があるにも関わらず、私たちはこの事実を知らされていない。当然、これを達成するための家族の関わり方については知る筈もない。何故ならばこの方法は通常精神医療の範囲の外にあるからです。

このため、家族の関わり方について鈴木講師に紹介して頂くこととしました。

ポイントは次のとおり。

- 病名や病状が違っていても、家族(親)の役割、対応、支援は同じです。
- 医療者と家族の役割は違います。治療を医師任せ、病院任せにしないことです。
- 入院は悪循環を断つ一つの契機に過ぎず、真の回復は退院後の本人の歩みから始まる。
- 見えている症状は表面的な一部分。見えていない部分を治さなければ回復しない。
- 回復とは、心が成長すること。これを助けるのが親の役割で、親しか出来ない。
- 回復へ向けては5つの段階がある。段階ごとに家族の対応を変えなければならない。
- キーワードは、傾聴、受容、共感、寄り添う、見守る、支える、褒める、向き合う。
- 回復のペースは本人が作る。親は本人の歩調に合わせるが大切。
- 本人の病状改善、心の成長に親は頑張らない。本人に任せる。等々

*** 質疑応答時間を多めに設定しています。**